

■ 宮城野の里 福祉避難所 しんぶんマルワク NO. 1 発行！ ■

宮城野の里への職員派遣にご協力いただき、本当にありがとうございます。

本日4月6日時点で多くの施設からご協力いただき、35名近くの職員さんを派遣いただく予定になっています。会員のみなさんのあたたかい支援に感謝申し上げます。

現在、勤務表を何とかやりくりしようと日程調整をされている施設のみなさん、そして、これから5月の勤務表を組むにあたって現場から職員を何とか送り出そうとご尽力いただいている施設のみなさん！派遣に関する相談や現時点の状況など、事務局で持っている情報はすべてオープンにしておりますので、お気軽に何でもお問合せください。



なお、本日、宮城野の里の福祉避難所から、ニュース第1号【福祉避難所 しんぶんマルワク NO. 1】が発行されています。この新聞をつくってくださっている方は、相馬由美さん(沖縄在住)という女性で、これから約3ヶ月間、宮城野の里でコーディネーター業務をしてくださる方です。

ニュースは、[老福連HP](#) ⇒ [トップページ](#)・[お知らせ欄](#) ⇒ [【宮城野の里 福祉避難所 しんぶんマルワク】](#)にアップしていますので、各自、ホームページからダウンロードをしてご確認ください。

下記、記事は、4月6日の新聞に掲載された記事です。

東日本大震災で被災した介護が必要な高齢者らの「福祉避難所」になっている仙台市宮城野区の「宮城野の里」。同施設職員とともに支えているのは、全国からかけつけた介護ボランティアです。

宮城野の里には、全日本民医連や21・老福連(21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会)などの支援で物資が寄せられ、ボランティアが派遣されています。沖縄県那覇市から来た女性(33)は職場を3カ月休職して来ました。介護福祉士の資格を持っています。

「被災した人たちが助けを求めているから自分も何かしたかった。沖縄も基地問題で全国から支援してもらいました。困っているときはお互いさまです。ここにいる人は心のケアを必要としています。できるだけ側にいてあげたい」

東京都足立区から来た男性(29)＝介護福祉専門学校教員＝は「家族や家など大切なものを失った人たちの心の傷は深く最初はどのように接していいのかわかりませんでした。つらいことをためこまずに話してもらいたい」と言います。

支援の人たちは、日常的な介護に加えて、手作りのカレンダーや被災者の「欲しいものリスト」もつくりました。リストには、入浴剤や手鏡、本などが書き込まれており、これから支援に来る人たちに持って来てもらうことにしています。

福祉避難所の責任者の植みさ子さん(57)は「みなさん忙しいなか支援に来てくれ、全国の民医連と21・老福連の力を感じます。しかし、続けていくためには行政による財政的な支援が必要です」と訴えました。

■ 人的支援にご協力いただく施設の管理者のみなさんへのお願い ■

人的支援にご協力いただくにあたり、下記についての配慮をよろしくお願いいたします。

★ 支援者は「二次被災者」という認識を

災害時に被災した人たちをケアする人々は、「二次被災者」ともいわれます。日常とはまったく違った緊張した環境で介護を提供する職員にとって、ストレスの状況が高まるのは必至です。

★ 災害支援者のセルフケアの方法を伝える

現場職員を送り出す管理責任者は、下記の内容についてオリエンテーションをお願いいたします。

たとえわずか数日間の派遣であっても、支援者自身の健康を守るためには必要です。(被災現場では、環境が混乱しており、支援者も精神的な影響を被り心身の変調をきたしがちです。)



1. 災害時に感じるストレスは、「異常」な事態への「正常」な反応であること。
普段起こらない感情や行動が起こるのも当然のことである。
2. ストレス反応について、心理・感情面、身体面、思考面、行動面の各症状をチェックできるようなリストを渡す。もしストレス反応が多くあるようなら、そのまま放置せずに、対処方法を講じること。
3. ストレスを軽減させるためのセルフケア方法を伝える。

★ 激励と労をねぎらうこと

管理者が個人的に励ましの言葉をかけるという方法もありますが、もっと公式に組織としての応援や励ましを示すには、送り出すためのセレモニーを行うことも一つの方法です。支援活動を終了して帰ってきた場合にも労をねぎらうことを必ずおこなうことが必要です。

なお、[災害支援者のセルフケアについて参考資料を老福連HPにアップしています。管理者・責任者のみなさんはぜひご確認ください。](#)

[老福連HP ⇒ トップページ・お知らせ欄 ⇒ 【 人的支援にご協力いただくにあたって 援助者のメンタルヘルス 】にアップしています。各自、ホームページからダウンロードをお願いいたします。](#)

■ 人的支援にご協力いただくにあたり 交通アクセスのご確認を ■

ニュースNO. 6に掲載している通り、現地・宮城野の里への交通アクセスは日々状況が変わっています。人的支援にご協力いただく施設のみなさんは、必ず各自で交通アクセスを確認・確保し、現地到着時間を老福連事務局までご連絡ください。

前述したとおり、宮城野の里ではコーディネーターさんが常駐し、日夜苦勞しながら変則勤務のシフトを組んでおられます。(介護職員6名・看護職員2名のシフトです)

混乱を防ぐためにも、現場の支援に入れる正確な時間をなるべく早めにお伝えしたいと思いますし、コーディネーターさんへの負担もなるべく減らしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。